

15 年度農水省予算案が固まる

農水省は1月13日に2015年度の基本予算案を発表した。2014年度に比べて177億円減となる2兆3090億円となり自民・公明両党の政権復帰後より前年比を下回るのは初めてとなった。一方で国全体の一般会計予算総額は96兆3400億円となり過去最大。西川農水大臣は先の会合で予算はほぼ確保できたと語られている。さて、今年度の農水省予算の中身はどうなっているのか見てみた。

今回の予算の注目事業は？

前年比と比べてほぼ横ばいの予算に対して予算配分見ると大きく注目された事業は2つある。1つは畜産・酪農の競争力の強化という項目で新規事業が9つある。ポイントとしては重点5項目で250億円の前年プラス予算が組まれている点だ。生産基盤の弱体化、配合飼料の価格上昇による生産コストの増加、TPPの先行き不安に対する畜産農家の体力増強のための支援と飼料用米生産拡大に必要な施設や地域の中心的な畜産経営団体等への支援（畜産クラスターの構築）等に力点が置かれているようだ。

平成27年度 農林水産省予算の骨子 総括表

区 分	26年度 予算額	27年度 概算決定額 A	26年度補正追加額	
			補正額B	A+B
農林水産予算総額	23,267	23,090	2,781	25,871
(対前年度比)	—	99.20%	—	111.20%
公共事業費	6,578	6,592	667	7,259
(対前年度比)	—	100.20%	—	110.30%
一般公共事業費	6,386	6,399	353	6,753
(対前年度比)	—	100.20%	—	105.70%
災害復旧等事業費	193	193	314	506
(対前年度比)	—	100.00%	—	263.00%
非公共事業費	16,689	16,499	2,113	18,612
(対前年度比)	—	98.90%	—	111.50%

(単位：億円 四捨五入で端数は一致しない)

2つ目として、担い手への農地集積・集約化等による構造改革の推進という項目で農地中間管理機構本格稼働を目的とする資金が前年305億円から576億円に大きく配分されており、こちらも約250億円プラスの大幅予算組み入れとなっている。安倍農政改革を汲んだ予算配分と言えよう。

水稲関連の予算は？

さて、肥料業界にとって気になる水稲関連の予算だ。新たな経営所得安定対策費用としては昨年比2%の増に留まりほぼ横ばいだ。経営所得安定対策として米の直接支払交付金は昨年度決定した通り半減された予算が組み込まれているが収入減少影響緩和対策費用が6%増で昨年75.1億円から80.2億円に積み上げされている。また、収入減少影響緩和対策移行円滑化対策として27.4億円の予算も組み入れられている。これは米だけではないが、昨今の厳しいコメ市況を反映したものといえよう。

事業に対する増額幅が大きい事業は何？

配分額は大小様々だが新規を除いて既存にある事業の中で配分が大きい事業のベスト5を挙げてみる。1位は畜産・酪農の収益性向上で353%アップ、2位は次世代施設園芸導入加速化支援事業で313%アップ、3位は特殊自然災害対策施設緊急整備事業で250%アップ、4位は森林・林業再生基盤づくり交付金で227%アップ、5位は自給飼料の生産拡大で226%アップとなっている。逆に既存の事業で大きく減額されている事業は米の直接支払交付金以外は目立ってないが研究関連予算が減少している点が気になるところだ。

14 年度補正予算「稲作農業の体質強化緊急対策事業」は申請されましたか？

農水省は、米価下落対策として新たな対策を緊急的に実施することになりました。予算は200億4百万円とかなりの事業額となっており、既に各地で生産者への説明会も行われたと思います。申請は1 月 30 日が期限で迫っていますが、申請フォームはかなり簡略化されており、まだ間に合いますので是非チェックされる事をお勧め致します。支援内容・支援対象者は下記ホームページをご参照下さい。

http://www.maff.go.jp/j/budget/2014/pdf/02_26_hosei.pdf

http://www.maff.go.jp/j/seisan/nosan/pdf/3_gaiyou.pdf

産地紹介「レインボーレッド」

キウイフルーツといえば原産国はニュージーランドだと思われる方が多いと思うが、実は中国が原産国であるのをご存じだろうか？ 20 世紀初頭に中国からニュージーランドに持ち込まれ品種改良されたもので、当時は「チャイニーズ・グーズベリー」と言われていたようで、ニュージーランドが海外にアピールするために「キウイフルーツ」と改められたそうだ。

日本でのキウイフルーツ結果樹栽培面積は 2,170ha で収穫量は 30,400 トン。主な産地の生産割合は愛媛県が 26%、福岡県が 19%、和歌山県が 11% となっている。

今回紹介させて頂くレインボーレッドは果皮には毛が無く、果肉中央の種が含まれている部分は赤く、私達に馴染みの深いヘイワードに比べて小ぶりで極早生、酸味が少なく甘いのが特徴だ。静岡県的小林利夫氏によって育成されたもので「有限会社コバヤシ」によって商標登録されている。主な産地は福岡県 28.2ha（年間生産量 600 トン）、静岡県 11.3ha となり、全国のキウイフルーツ栽培面積のうち 2% 強がレインボーレッドの栽培となる。国内最大産地の福岡県八女市は県下栽培量のほぼ全量を占めており、栽培面積は年々増加傾向にある。同市で二代にわたりキウイフルーツを栽培している田中英行氏にレインボーレッドについて伺ってみた。田中氏の栽培面積は 1.2ha、内レインボーレッドは 0.2ha、レインボーレッドの生産は 12 年前からで八女市のキウイフルーツ栽培が増加するに伴い栽培時期を広げるため、極早生であるレインボーレッドを選択。ヘイワードとの違いとしては生育が 20 日程早く他品種との組合せで作業性が改善されること、糖度が 17%～20% と甘くヘイワードの味が苦手な人に人気があるようだ。一方、芽が多いため、夏場の芽かき作業に追われること、ヘイワードよりも熟成期間が短く足が速いことが課題であるとお教え頂いた。

レインボーレッドの旬は 10 月下旬から 11 月中旬となっている。旬は過ぎたが、読者の皆様も次回一度は食されてみてはいかがでしょうか。今回取材に協力頂きました田中英行様、佐賀県特約店合資会社宮原商店様ありがとうございました。（福岡支店）

出展：「統計資料は農林水産省統計：平成 25 年キウイフルーツの結果樹面積、収穫量及び出荷量と平成 23 年産特産果樹生産動態調査より抜粋」



【上段左から 4 番目が田中英行氏】

そろそろ節分ですね。節分の豆まきには、なんで炒った大豆を使うのか、昔から不思議に思っていました。調べてみたところ、節分は旧年の厄災を負って払い捨てられるものである為、撒いた豆から芽が出ては不都合であったためだそうです。地域によって風習は違うと思いますが、豆まきをして今年一年の無病息災を願いたいですね。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>